

青森県内の消費生活相談受付状況（令和5年4月～9月）のポイント

【相談全体に関して】

- 令和5年4～9月の消費生活相談件数は計 4,048 件で、前年同期と比較して 159 件の増加（増加率 4.1%）となっています。
- うち特殊詐欺の相談は計 357 件で、前年同期と比較し 46 件（11.4%）減少しました。これは、還付金詐欺の相談が減少したことが主な要因となっています。

【特徴・変化】

① 高齢者からの相談件数が増加傾向

- ・ 65歳以上の高齢者からの相談件数 1,479 件（前年同期比+117 件、増加率 8.6%）
- ・ 相談全体に占める割合 36.5%（← 前年同期 35.0%）

② 各年代の相談状況

- ・ 20歳未満からの相談件数 89 件（前年同期比▲14 件、減少率 13.6%）
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（インターネットゲームやアダルトサイトなど）
- ・ 20代からの相談件数 308 件（前年同期比+32 件、増加率 11.6%）
件数が多い相談：教養・娯楽サービス（教養娯楽等情報配信サービスなど）
- ・ 30代からの相談件数 304 件（前年同期比▲30 件、減少率 9.0%）
件数が多い相談：商品一般（不審な電話やメール、フィッシング詐欺など）
- ・ 40代からの相談件数 469 件（前年同期比▲50 件、減少率 9.6%）
件数が多い相談：商品一般（不審な電話やメール、フィッシング詐欺など）
- ・ 50代からの相談件数 674 件（前年同期比+38 件、増加率 6.0%）
件数が多い相談：保健衛生品（化粧品など）
- ・ 60代からの相談件数 761 件（前年同期比+83 件、増加率 12.2%）
件数が多い相談：商品一般（不審な電話やメール、フィッシング詐欺など）
- ・ 70代以上からの相談件数 1,106 件（前年同期比+82 件、増加率 8.0%）
件数が多い相談：商品一般（不審な電話やメール、フィッシング詐欺など）

③ 還付金詐欺に関する相談が減少

- ・ 特殊詐欺に関する相談件数 357 件（前年同期比▲46 件、減少率 11.4%）
- ・ 相談全体に占める特殊詐欺の割合 8.8%（← 前年同期 10.4%）
- ・ 特殊詐欺のうち、還付金詐欺相談件数 13 件（前年同期比▲23 件、減少率 63.9%）

④ 定期購入に関する相談が増加

- ・ 定期購入（健康食品・化粧品等） 385 件（前年同期比+38 件、増加率 11.0%）

⑤ 火災保険申請代行に関する相談が急増

- ・ 火災保険の申請を代行する「特定業者」 140 件（前年同期比+133 件、増加率 1900.0%）

⑥ 副業に関する相談が増加

- ・ 副業（登録料を支払ったが稼げない等） 113 件（前年同期比+28 件、増加率 32.9%）

令和5年4-9月における青森県内の消費生活相談状況

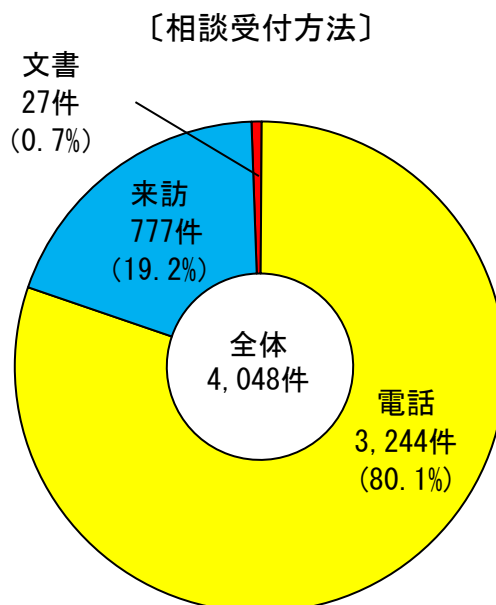
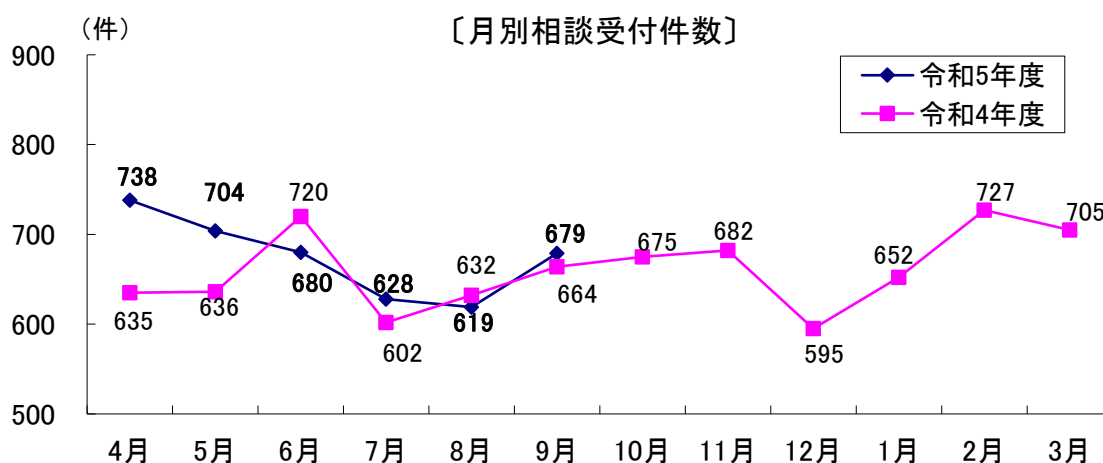
1 相談状況

(1) 概況

令和5年4-9月に県内の消費生活相談窓口で受け付けた消費生活に関する相談件数は、4,048件（苦情相談3,420件、問合せ628件であり、前年同期と比較して159件（4.1%）増加しています。

（単位：件）

項目	年度	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		3,420	3,163	257	108.1%
問合せ		628	725	▲97	86.6%
要望		0	1	▲1	-
計		4,048	3,889	159	104.1%

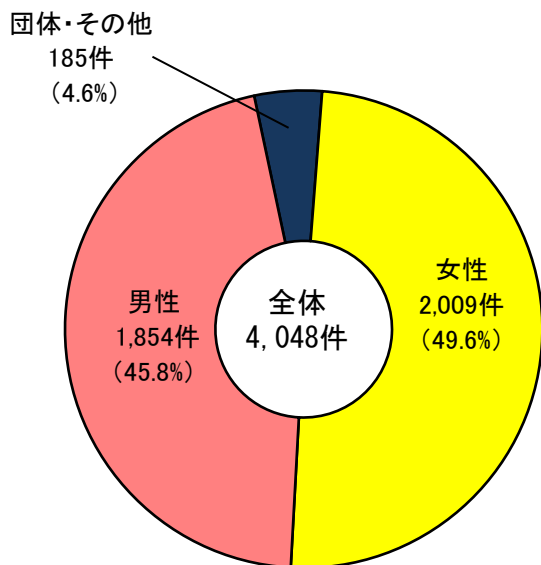


(2) 契約当事者の状況

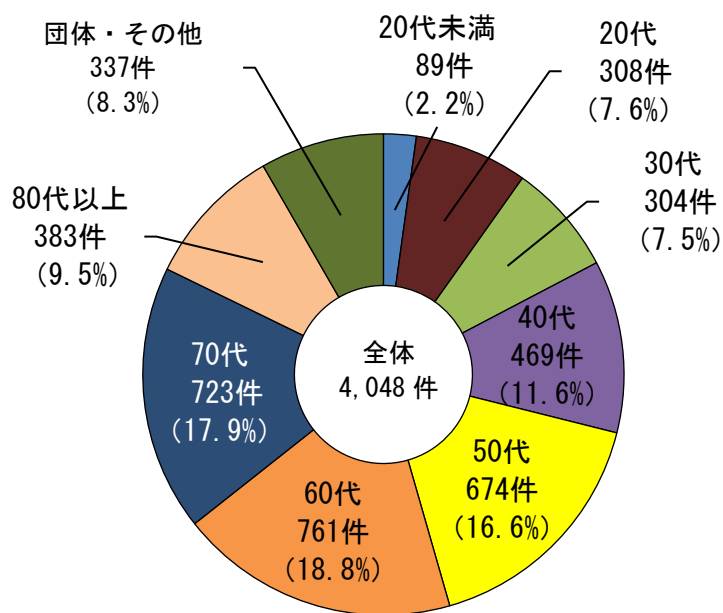
契約当事者を性別で見ると、女性が2,009件で、全体の49.6%を占めています。年代別では、60代が761件(18.8%)と最も多く、次いで70代が723件(17.9%)となっています。

また、契約当事者を職業別で見ると、無職が1,594件(39.4%)と最も多く、次いで給与生活者が1,461件(36.1%)となっています。

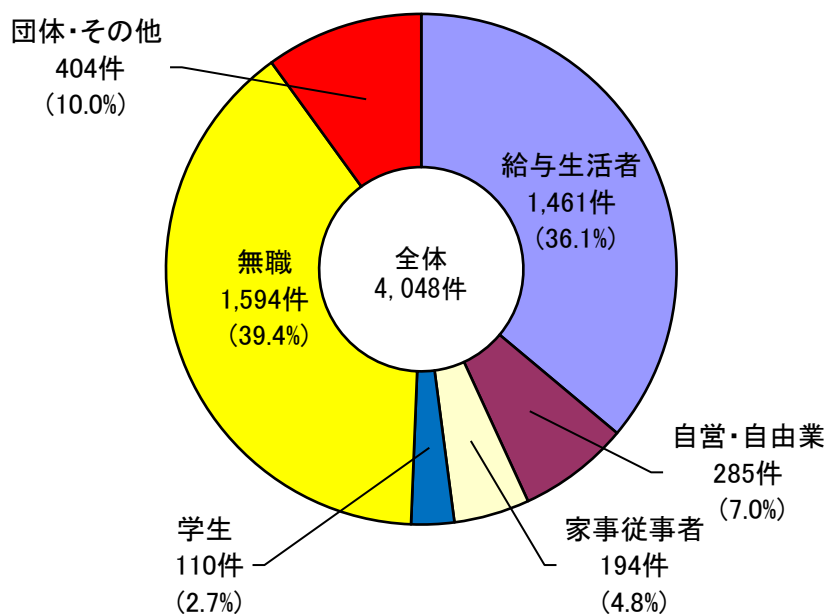
〔契約当事者の性別〕



〔契約当事者の年代〕



〔契約当事者の職業〕



(3) 主な商品・役務別の相談状況

(単位：件)

	商品・役務名	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	515	462	53	111.5%
2	金融・保険サービス	374	349	25	107.2%
3	保健衛生品	347	340	7	102.1%
4	他の役務	342	243	99	140.7%
5	運輸・通信サービス	320	264	56	121.2%
	その他	2,150	2,232	▲82	96.3%
	計	4,048	3,889	159	104.1%

1 「商品一般」

令和5年4-9月の相談件数は515件で、前年同期より53件(11.5%)増加しています。商品一般は、商品が多岐にわたる相談や、商品を特定できない相談が分類されます。不審な電話やメールに関する相談のほか、「消費料金」等の債務内容が不明な架空請求の相談やフィッシング詐欺に関する相談が含まれています。

2 「金融・保険サービス」

令和5年4-9月の相談件数は374件で、前年同期より25件(7.2%)増加しています。最も多いのは、融資サービスに関する相談の201件で、前年同期182件から19件(10.4%)増加しています。次いで、クレジットカードの入退会に関する相談や暗号資産の投資に関する相談が含まれる他の金融関連サービスに関する相談が多くなっています。

3 「保健衛生品」

令和5年4-9月の相談件数は347件で、前年同期より7件(2.1%)増加しています。化粧品に関する相談が255件で全体の73.5%を占めています。保健衛生品のうち、235件は定期購入に関する相談となっており、前年同期235件と同数となっています。

4 「他の役務」

令和5年4-9月の相談件数は342件で、前年同期より99件(40.7%)増加しています。最も相談が多いのは、役務その他の326件で、前年同期227件より99件(43.6%)増加となりました。火災保険を使って住宅の修理をしないかと持ちかける手口に関する相談が115件で、前年同期4件より111件(2,775.0%)増加しました。

5 「運輸・通信サービス」

令和5年4-9月の相談件数は320件で、前年同期より56件(21.2%)増加しています。最も多いのは、インターネット通信サービスに関する相談の131件で前年同期116件から15件(12.9%)増加しています。また、電報・固定電話に関する相談は62件で前年同期31件より31件(100.0%)増加しています。固定電話の解約の申込みをしたいのに電話が繋がらないなどの相談が増加したことが背景にあります。

(4) 契約当事者年代別商品・役務相談状況（上位3位）

契約当事者の年代別の商品・役務別上位3位は以下の表のとおりとなっています。20歳未満と20代では、教養・娯楽サービスが1位になっています。その内訳を見ると、20歳未満では、インターネットゲームやアダルト情報サイトの相談が主となっています。20代でも、教養・娯楽サービスが1位になっていますが、その内訳は副業などの教養娯楽等情報配信サービスや出会い系サイトを含む異性交際関連サービスなどが主となり年代別に特徴が異なります。

30代、40代、60代、70代、80代以上の1位は商品一般ですが、内訳としては不審な電話やメールに関する相談が多い傾向にあります。80代以上では、食料品が同数で1位となっており、その内訳は健康食品が主となっています。

50代は、化粧品の定期購入などの保健衛生品に関する相談が1位となっています。

(単位：件)

	1		2		3	
20歳未満	教養・娯楽サービス	32	保健衛生品	10	教養娯楽品	8
20代	教養・娯楽サービス	43	金融・保険サービス	38	保健・福祉サービス	31
30代	商品一般	38	金融・保険サービス	32	教養娯楽品 他の役務	各 27
40代	商品一般	53	金融・保険サービス	52	教養娯楽品 教養・娯楽サービス	各 40
50代	保健衛生品	94	商品一般	78	金融・保険サービス	65
60代	商品一般	106	保健衛生品	87	金融・保険サービス	59
70代	商品一般	101	他の役務	82	運輸・通信サービス	76
80代以上	商品一般	各	/		他の役務	44
	食料品	50				
その他・不明	商品一般	59	運輸・通信サービス	36	他の役務	34

(5) 相談に係る契約等の既払金額

令和5年4-9月の相談に係る既払金額等の状況をみると、お金を支払った人の数、既払金額の合計は増加しましたが、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額は減少しています。

	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	1,003人	864人	139人	116.1%
既払金額合計	413,375千円	391,358千円	22,017千円	105.6%
平均既払金額（一人当たり）	412千円	453千円	▲41千円	90.9%
最大既払金額	36,000千円	50,000千円	▲14,000千円	72.0%

2 消費生活相談における特殊詐欺の状況

(1) 概況

令和5年4-9月の特殊詐欺に関する相談件数は357件で、前年同期より46件(11.4%)減少しています。類型別にみると、振り込み詐欺が98件(相談件数の27.5%)と最も多く、次いでフィッシング詐欺の96件(同26.9%)となっています。フィッシング詐欺は、前年同期より28件(22.6%)の減少となっていますが、次々と新たな手口が登場していることから、引き続き警戒が必要です。

(単位：件)

類 型	年 度	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
振り込み詐欺		98	122	▲24	80.3%
架空請求詐欺		85	86	▲1	98.8%
還付金詐欺		13	36	▲23	36.1%
融資保証金詐欺		0	0	0	-
オレオレ詐欺		0	0	0	-
フィッシング詐欺		96	124	▲28	77.4%
F X、暗号資産などの投資詐欺		69	51	18	135.3%
ワンクリック詐欺		26	50	▲24	52.0%
老人ホームの入居権詐欺		25	27	▲2	92.6%
出会い系サイト・アプリ		22	13	9	169.2%
ウイルス感染の偽警告(サポート詐欺)		21	16	5	131.3%
合 計		357	403	▲46	88.6%

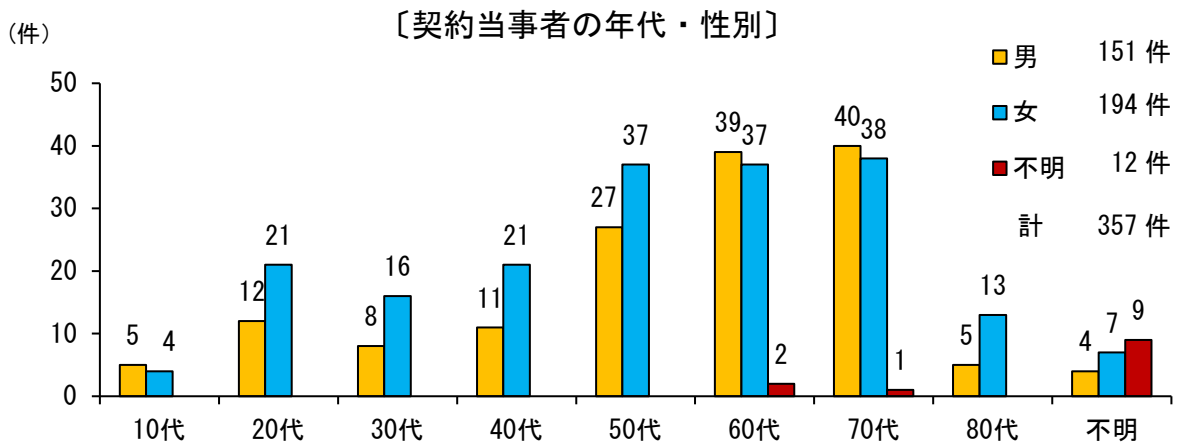
なお、それぞれの特殊詐欺の類型と、消費生活相談において分類される主な商品・役務名との対応関係は以下のとおりです。

(参考) 主な商品・役務別分類(P4)との対応状況

類型	主な商品・役務名	
振り込み詐欺	架空請求詐欺	商品一般、教養・娯楽サービス
	還付金詐欺	保健・福祉サービス
	融資保証金詐欺	金融・保険サービス
	オレオレ詐欺	相談その他
フィッシング詐欺	商品一般	
F X、暗号資産などの投資詐欺	金融・保険サービス	
ワンクリック詐欺	教養・娯楽サービス	
老人ホームの入居権詐欺	保健・福祉サービス	
出会い系サイト・アプリ	教養・娯楽サービス	
ウイルス感染の偽警告(サポート詐欺)	他の役務	

(2) 特殊詐欺に係る当事者の状況

令和5年4-9月における特殊詐欺に係る当事者を年代・性別でみると、70代男性が40件で最も多く、次いで60代男性の39件となっています。



(3) 特殊詐欺に係る既払金額

令和5年4-9月の特殊詐欺に係る既払金額等の状況をみると、最大既払金額は減少しましたが、お金を支払った人の数、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額は増加しました。

	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	66人	63人	3人	104.8%
既払金額合計	83,671千円	55,590千円	28,081千円	150.5%
平均既払金額(一人当たり)	1,268千円	882千円	386千円	143.8%
最大既払額	15,470千円	17,400千円	▲1,930千円	88.9%

3 相談全般における特徴

(1) 定期購入に関する相談が増加

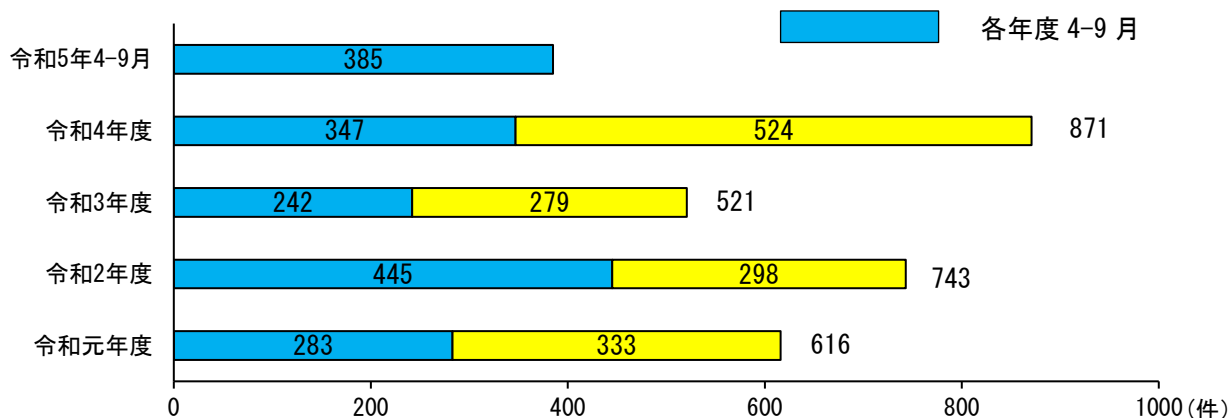
令和5年4-9月の定期購入に関する相談は385件で、前年同期より38件(11.0%)増加しました。定期購入に関する相談は、令和4年度に過去最高の相談件数となりましたが、今期は、前年同期を上回っています。

また、対象となる商品は化粧品が211件で、前年同期より8件(3.7%)減少した一方、健康食品は96件で、前年同期より12件(14.3%)増加しています。他の教養娯楽品が37件で、前年同期より25件(208.3%)増加していますが、これは主に電子タバコの定期購入に関する相談です。

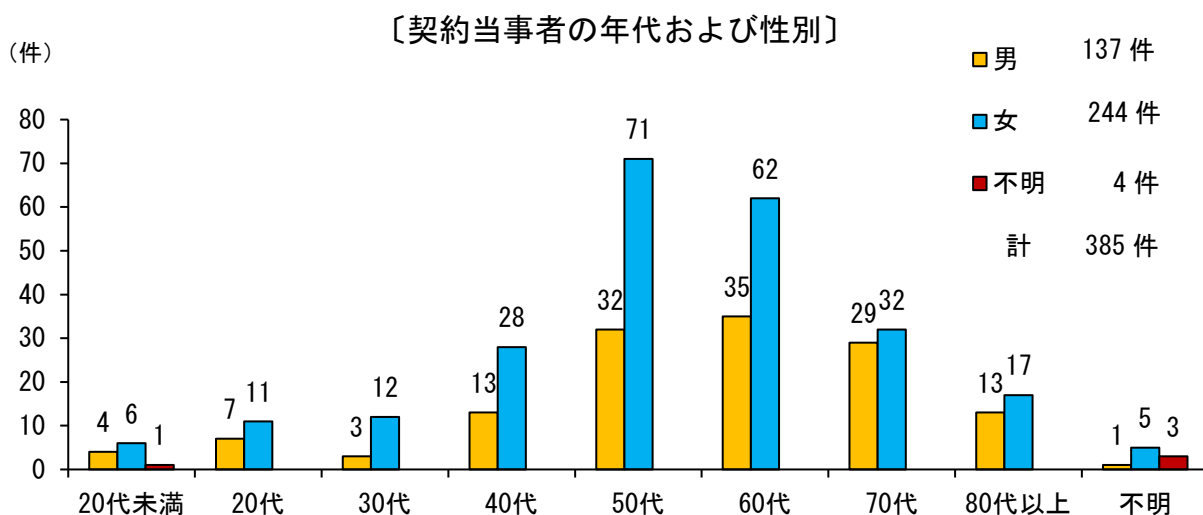
(単位：件)

商品・役務名	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1 化粧品	211	219	▲8	96.3%
2 健康食品	96	84	12	114.3%
3 他の教養娯楽品	37	12	25	308.3%
その他	41	32	9	128.1%
計	385	347	38	111.0%

〔定期購入に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別でみると、50代女性が71件と最も多く、次いで60代女性が62件となっています。性別では、女性が244件と、全体の63.4%を占めています。



(2) 火災保険申請代行に関する相談が急増

火災保険を使って住宅の修理をしないかと火災保険の申請代行を持ちかける「特定業者」に関する相談が140件で、前年同期より133件(1,900.0%)増加しました。

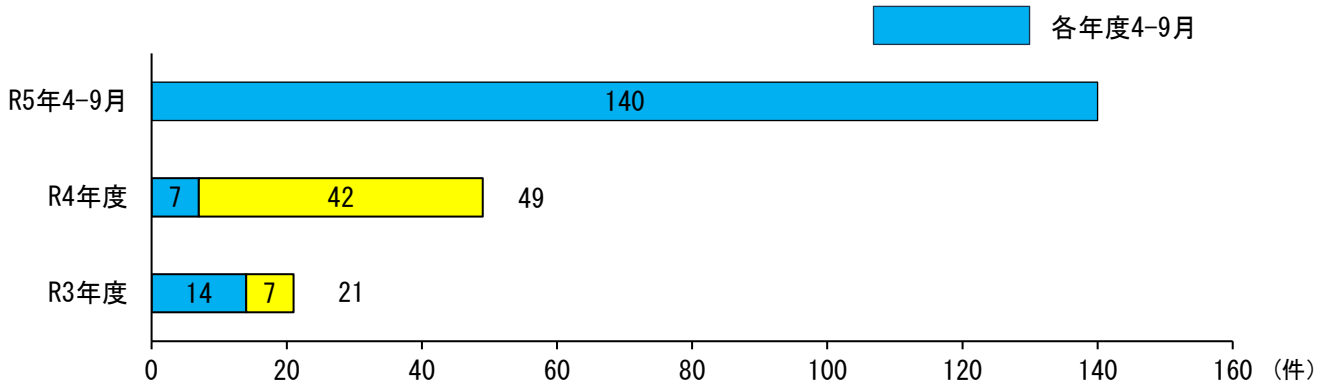
自然損耗や経年劣化による損壊は、火災保険金の支払いの対象外であるにも関わらず、災害で壊れたこととして保険金を申請するよう仕向けたり、支払われた保険金の50%前後の高額な報酬や解約料を請求するなど問題の多い勧誘が行われています。

(単位：件)

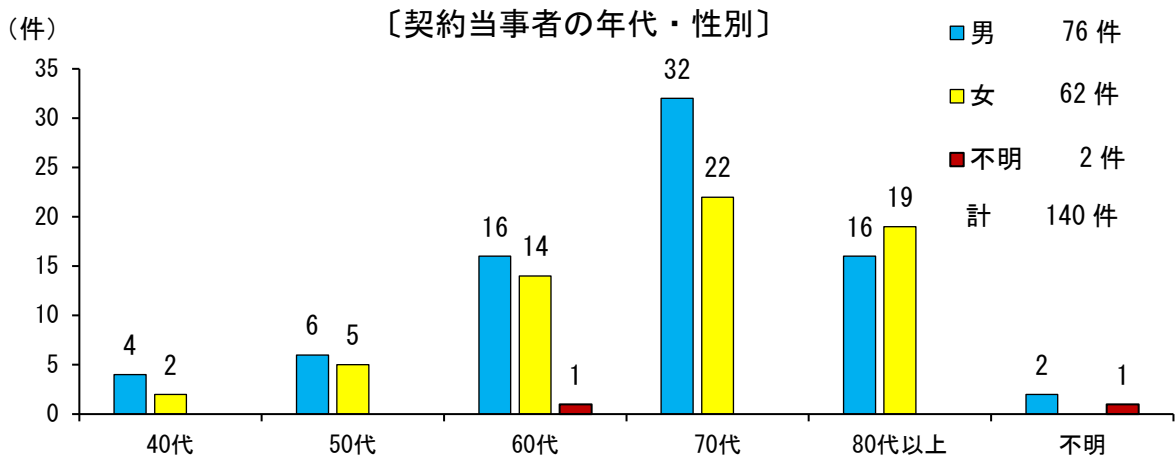
	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相 談 件 数	140	7	133	2,000.0%

この相談は、県内では令和3年度から寄せられるようになりましたが、令和5年4-9月には、令和4年度1年間の相談件数の約3倍に達するほど急激に相談が増加しました。

〔火災保険申請代行に関する相談件数の推移〕



契約当事者を年代・性別で見ると、40代以上に偏っており、中でも70代が54件で相談全体の38.6%を占めています。



(3) 副業に関する相談が増加

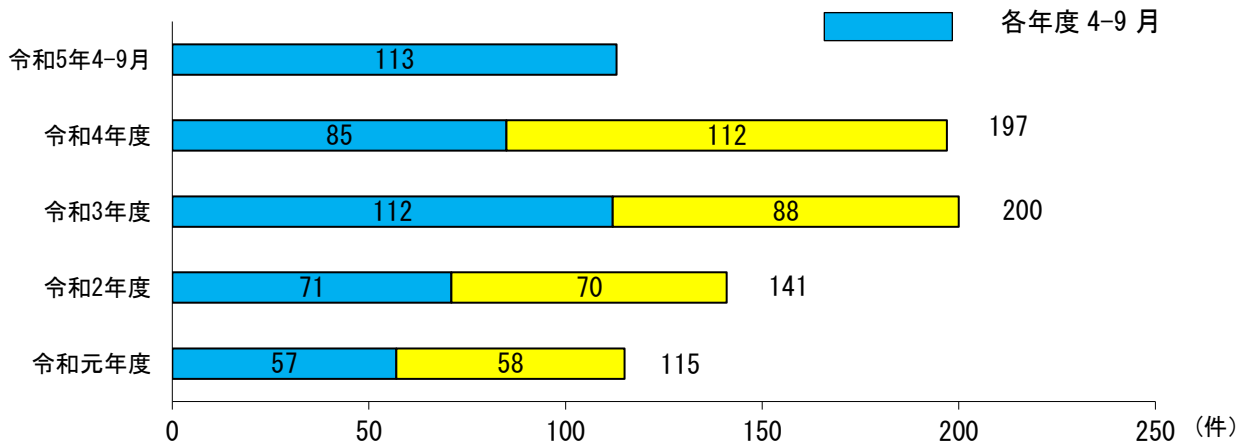
令和5年4-9月の副業に関する相談は113件で、前年同期より28件(32.9%)増加しました。過去5年間の相談件数の推移をみると、わずかに減少傾向にあった副業に関する相談が一転して増加していることがわかります。

収入を得るためのマニュアルの購入費用など様々な名目で請求される費用を、消費者金融等から借入れて支払うよう勧められますが、思うように収入を得ることができず債務整理をする事態に陥った事例もありました。

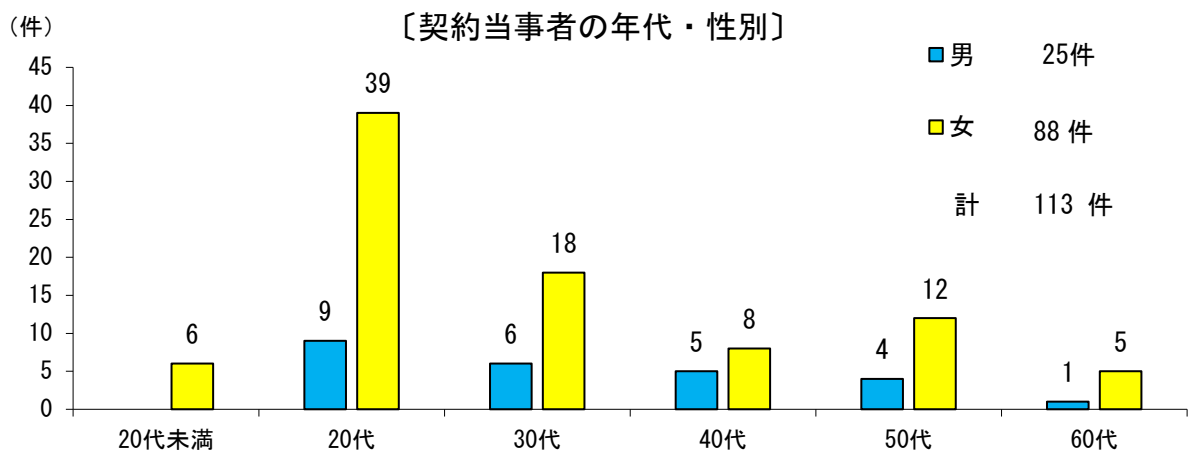
(単位：件)

	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
相 談 件 数	113	85	28	132.9%

〔副業に関する相談件数の推移〕



契約当事者の年代・性別の特徴を見ると、20代女性の39件が最も多く、次いで30代女性が18件となっています。20代以下が全体の47.8%を占めており、若年層に相談が多いのが特徴です。



副業に関する相談に係る既払金額を見ると、お金を払った人の数、既払金額合計、平均既払金額、最大既払金額とも増加しており、被害が深刻化していることがわかります。

(単位：件)

	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	52人	49人	3人	106.1%
既払金額合計	36,453千円	21,722千円	14,731千円	167.8%
平均既払金額 (一人当たり)	701千円	443千円	258千円	158.2%
最大既払金額	5,700千円	3,040千円	2,660千円	187.5%

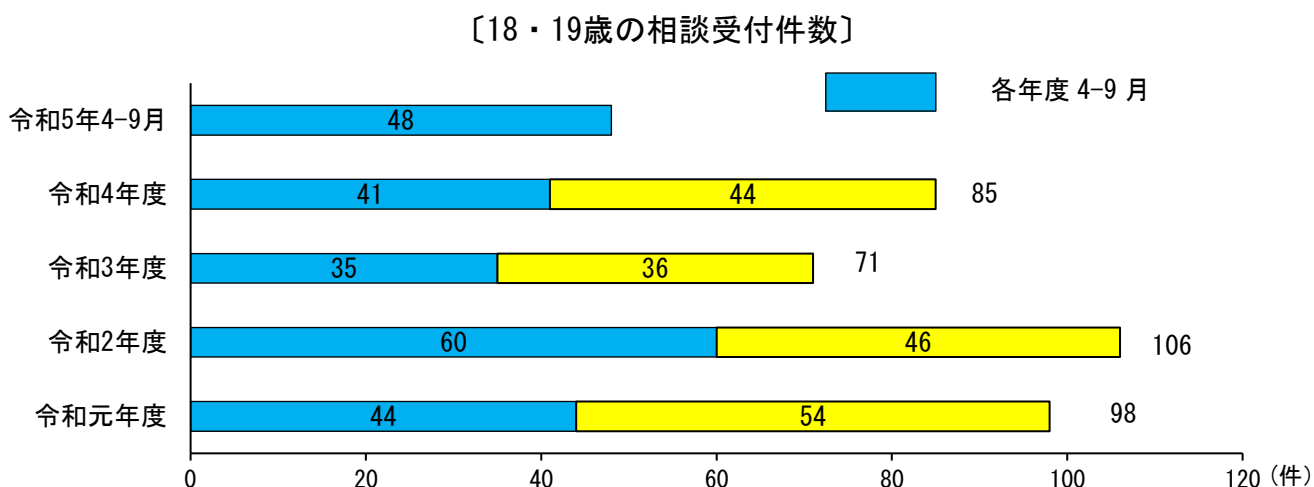
(4) 18歳・19歳の相談状況

① 18歳・19歳の概況

令和4年4月1日から改正民法が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これに伴い、これまで未成年者取消権により、契約の取消しが可能だった、18歳、19歳の契約に関するトラブルが懸念されることから、この年代の相談状況に注目しています。

令和5年4-9月の18歳、19歳の相談件数は48件で、前年同期より7件（17.1%）増加しています。

過去5年間の18歳、19歳の相談件数を見ると、増加と減少を繰り返しているのがわかります。



② 18歳・19歳の主な商品・役務別の相談状況

令和5年4-9月の18歳・19歳の相談では、出会い系サイトを介した副業やインターネットゲームなどの教養・娯楽サービスに関する相談が11件と最も多くなりました。次いで多いのは、脱毛エステなどの保健・福祉サービスで6件、キャリア決済の不正利用などの商品一般が5件となっています。

(単位：件)

	商品・役務名	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	教養・娯楽サービス	11	11	0	100.0%
2	保健・福祉サービス	6	5	1	120.0%
3	商品一般	5	1	4	500.0%
	その他	26	24	2	108.3%
	計	48	41	7	117.1%

4 65歳以上の高齢者の状況

(1) 全般

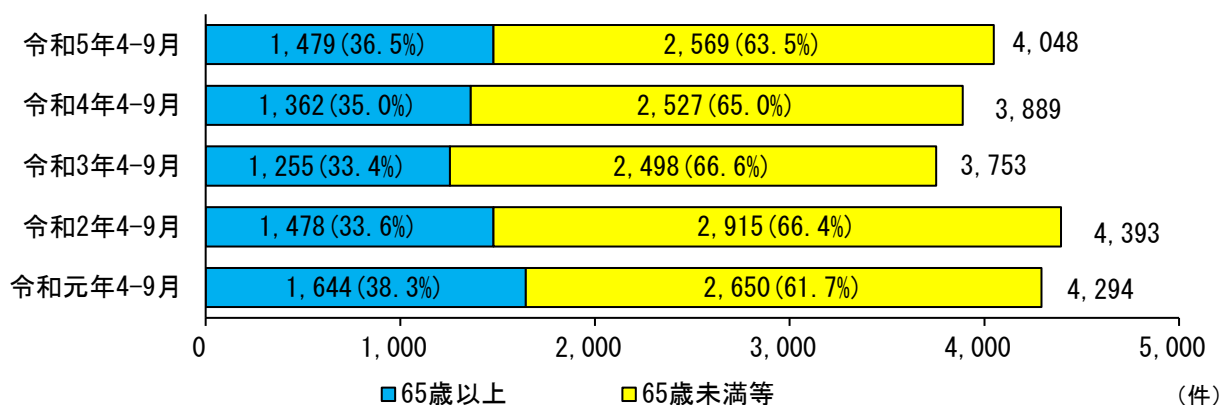
① 高齢者の概況

令和5年4-9月の高齢者の相談は1,479件で、前年同期と比較して117件(8.6%)増加しています。相談全体に占める割合は36.5%で前年同期の35.0%から1.5ポイント増加しています。

(単位：件)

項目	年度	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
苦情		1,214	1,053	161	115.3%
問合せ		265	309	▲44	85.8%
計		1,479	1,362	117	108.6%

〔高齢者の占める割合と相談件数の推移〕



② 高齢者の主な商品・役務別の相談状況

令和5年4-9月の高齢者の相談では、架空請求などが含まれる「商品一般」に関する相談が201件と最も多く、前年同期より15件(8.1%)増加しています。次いで多いのは、他の役務の161件で、前年同期より67件(71.3%)増加しています。これは、火災保険申請代行に関する相談が増加したことが要因の一つと考えられます。

次いで、運輸・通信サービスの148件で、前年同期より40件(37.0%)増加しています。インターネット通信サービスや電報・固定電話に関する相談が増加したことが主な要因となっています。

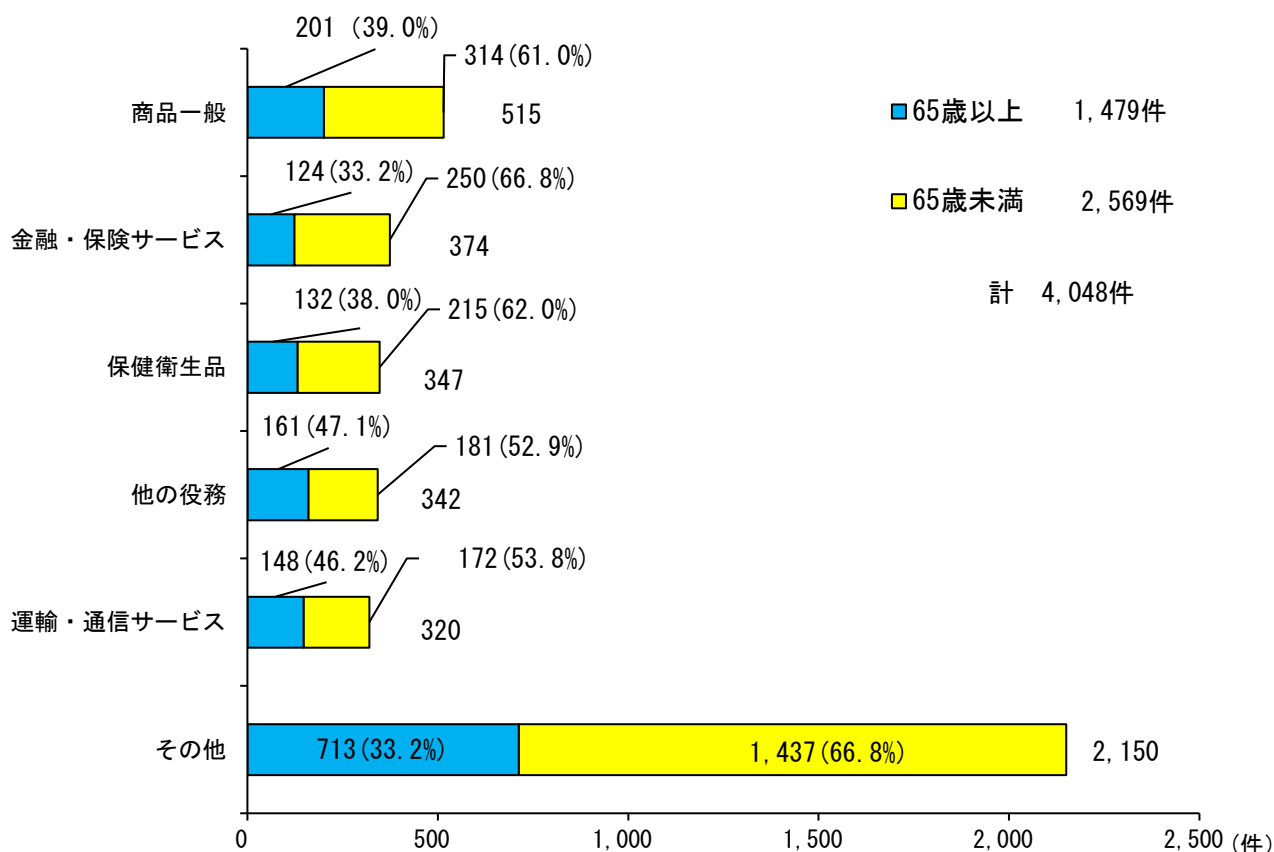
(単位：件)

	商品・役務名	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
1	商品一般	201	186	15	108.1%
2	他の役務	161	94	67	171.3%
3	運輸・通信サービス	148	108	40	137.0%
4	保健衛生品	132	108	24	122.2%
5	食料品	125	128	▲3	97.7%
	その他	712	738	▲26	96.5%
	計	1,479	1,362	117	108.6%

〔主な商品・役務別の相談に占める高齢者とそれ以外の割合〕

主な商品・役務別に高齢者の割合をみると、「他の役務」に関する相談が47.1%と最も高くなっています。火災保険を使って住宅の修理をしないかと持ちかける手口や、パソコンなどのウイルス感染の偽警告に関する相談などがありました。

次いで、「運輸・通信サービス」に関する相談が46.2%となっています。通信関係の知識に乏しい高齢者に対し、固定電話のデジタル化により、光回線に変更しなければならないと言って光回線の契約をさせるインターネット接続回線に関する相談や固定電話に関する相談が多くなっています。



③ 高齢者の相談に係る契約等の既払金額

高齢者の相談に係る既払金額等の状況を見ると、お金を支払った人の数、既払金額合計は増加していますが、平均既払金額、最大既払金額は減少しています。

(単位：件)

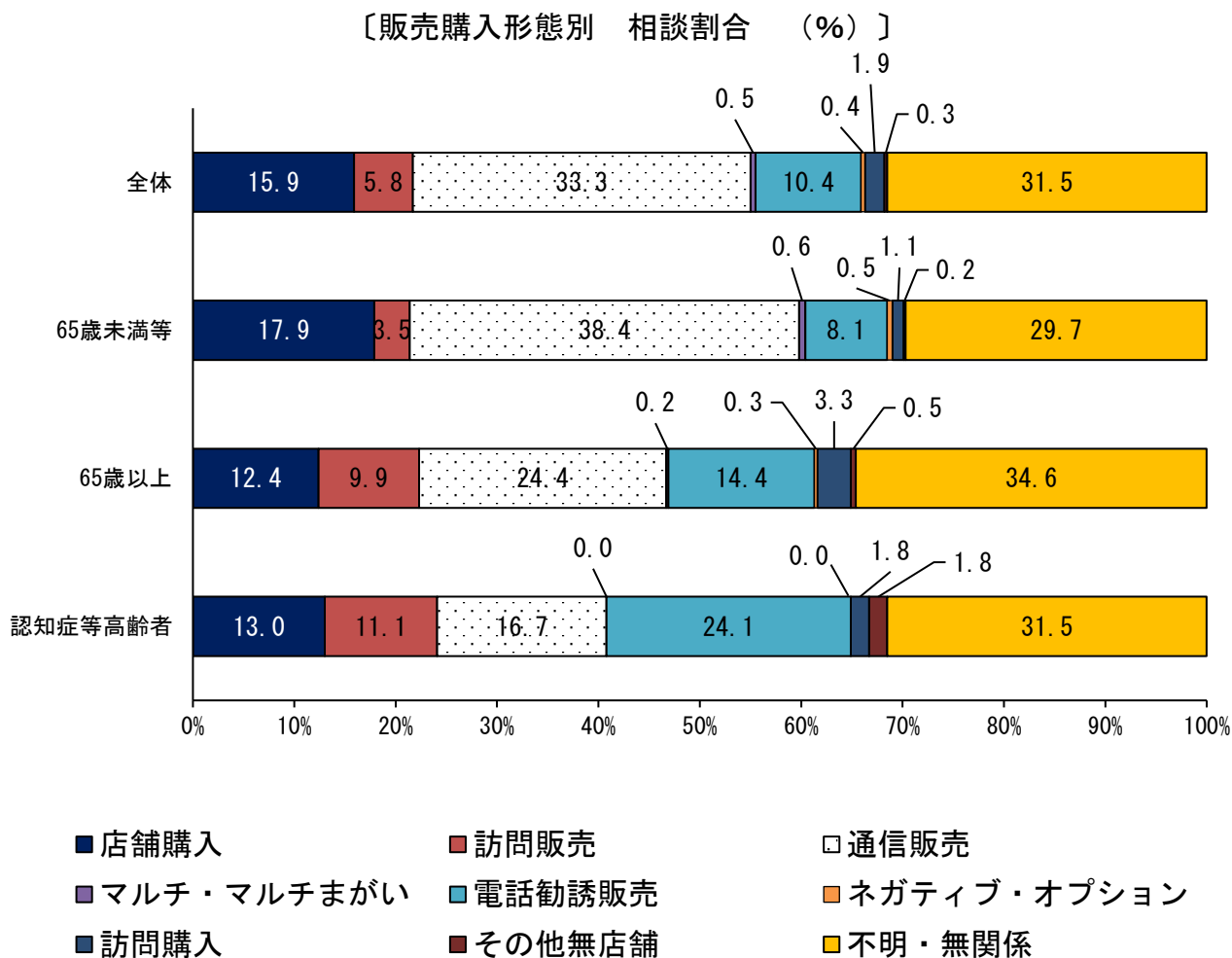
	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
お金を支払った人の数	290人	222人	68人	130.6%
既払金額合計	178,770千円	170,870千円	7,900千円	104.6%
平均既払金額(一人当たり)	616千円	770千円	▲154千円	80.0%
最大既払金額	36,000千円	50,000千円	▲14,000千円	72.0%

④ 販売購入形態別相談割合

販売購入形態別で見ると、65歳以上では、65歳未満等と比べて訪問販売や電話勧誘販売が多く、特に認知症等高齢者においてその傾向は顕著です。認知症等高齢者の判断力不足に乘じ、悪質な訪問販売や電話勧誘販売が行われていることがうかがえます。

なお、認知症等高齢者については、訪問販売が11.1%で前年同期（7.9%）より増加、同様に電話勧誘販売も24.1%で前年同期（14.3%）よりも大きく増加しています。

その他、65歳以上で不明・無関係が多くなっているのは、不審な電話やメールの相談がここに分類されることも要因の一つとなっています。



(2) 高齢者の特殊詐欺の状況

① 概況

高齢者の特殊詐欺に関する相談件数は141件で、前年同期より23件（14.0%）減少しています。類型別にみると、振り込め詐欺が53件（相談件数の37.6%）と最も多く、次いでフィッシング詐欺の34件（同24.1%）となっています。

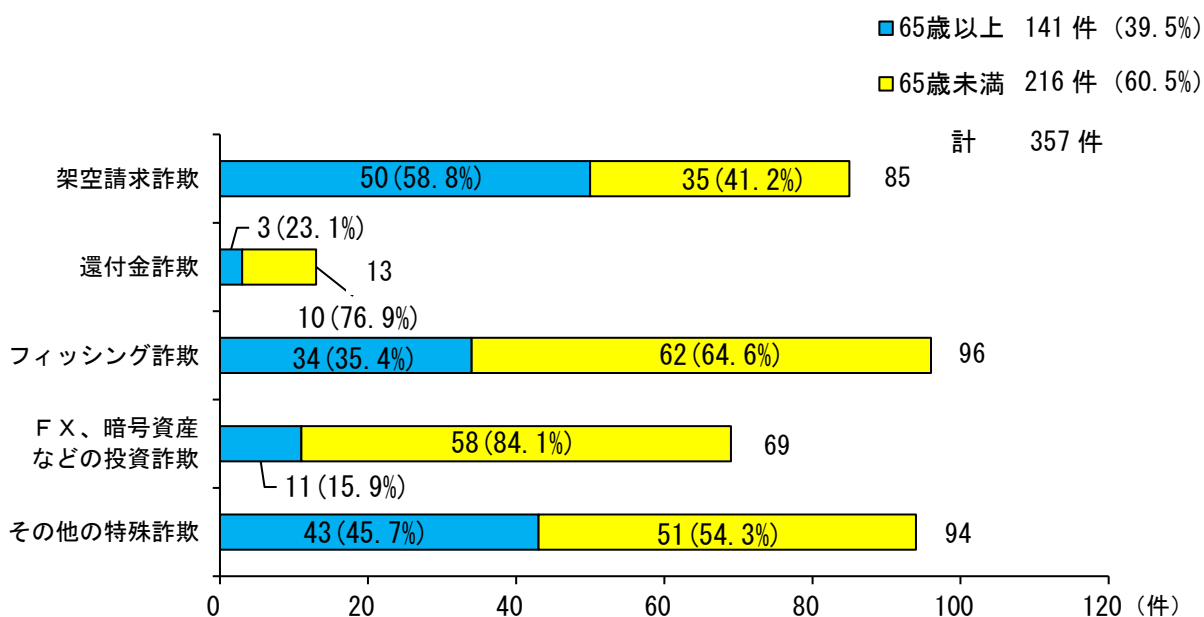
振り込め詐欺のうち、還付金詐欺が3件で前年同期より19件（86.4%）減少しており、特殊詐欺の相談が減少したことの主な要因となっています。

(単位：件)

類 型	年 度		増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)		
振り込み詐欺	53	66	▲13	80.3%
架空請求詐欺	50	44	6	113.6%
還付金詐欺	3	22	▲19	13.6%
融資保証金詐欺	0	0	0	-
オレオレ詐欺	0	0	0	-
フィッシング詐欺	34	42	▲8	81.0%
老人ホームの入居権詐欺	25	25	0	100.0%
F X、暗号資産などの投資詐欺	11	5	6	220.0%
ワンクリック詐欺	9	18	▲9	50.0%
ウイルス感染の偽警告（サポート詐欺）	7	6	1	116.7%
出会い系サイト・アプリ	2	2	0	100.0%
合 計	141	164	▲23	86.0%

② 特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合

特殊詐欺類型別に占める高齢者の割合は、架空請求詐欺が58.8%と最も高く、次いで、その他の特殊詐欺が45.7%となっています。



③ 高齢者の特殊詐欺に係る既払金額

高齢者の特殊詐欺の相談に係る既払金額の状況をみると、お金を払った人の数は減少しましたが、既払金額合計、一人当たりの平均既払金額、最大既払金額は増加しています。

	年 度		増 減 (a-b)	前年比 (a/b)
	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)		
お金を支払った人の数	13人	14人	▲1人	92.9%
既払金額合計	23,342千円	11,923千円	11,419千円	195.8%
平均既払金額（一人当たり）	1,796千円	852千円	944千円	210.8%
最大既払金額	10,080千円	8,950千円	1,130千円	112.6%

5 多重債務に関する相談の受付状況

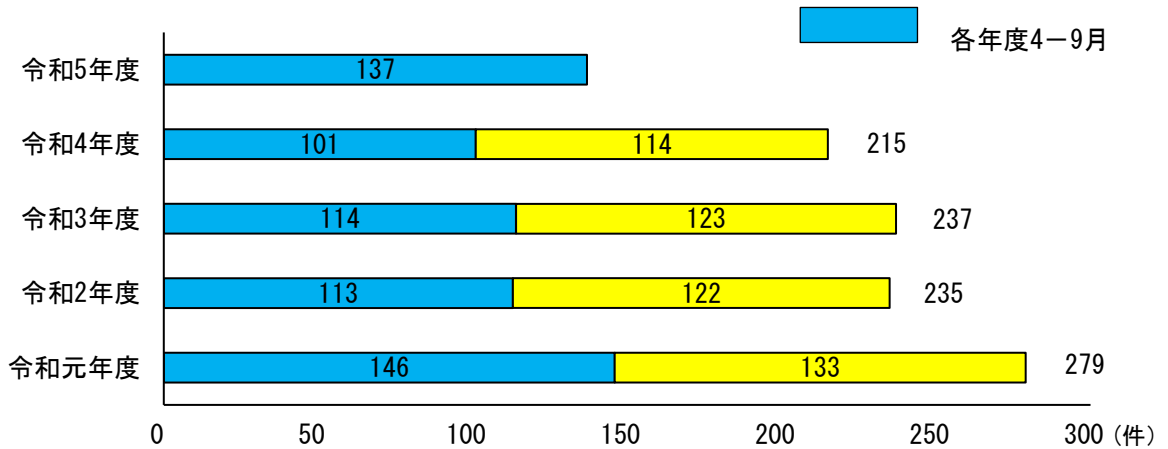
令和5年4-9月における多重債務に関する相談件数は137件で前年同期より36件(35.6%)増加しています。

(単位：件)

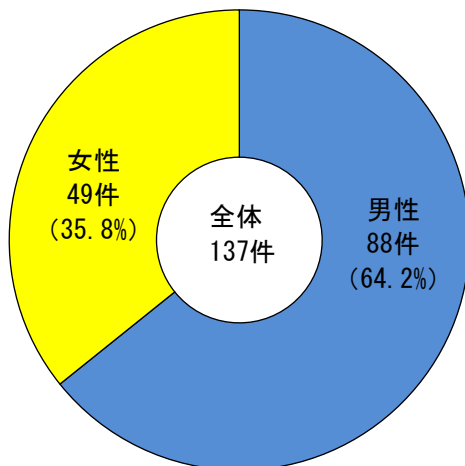
	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増減 (a-b)	前年度比 (a/b)
相談件数	137	101	36	135.6%

過去5年間の同時期の件数を比較すると、これまで減少傾向にあった相談が増加に転じていることがわかります。

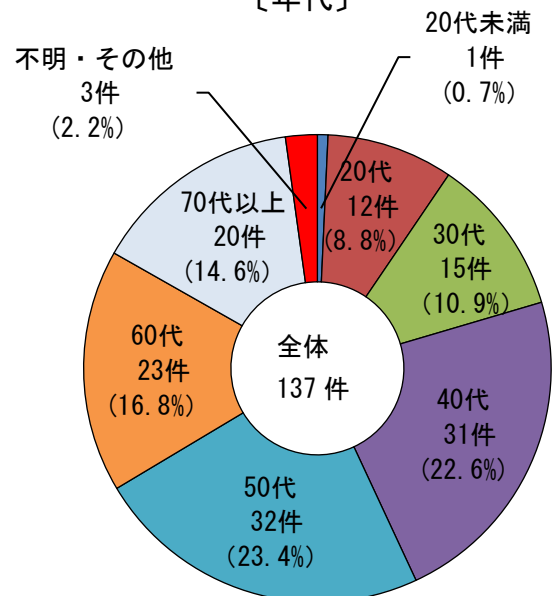
〔多重債務相談件数の推移〕

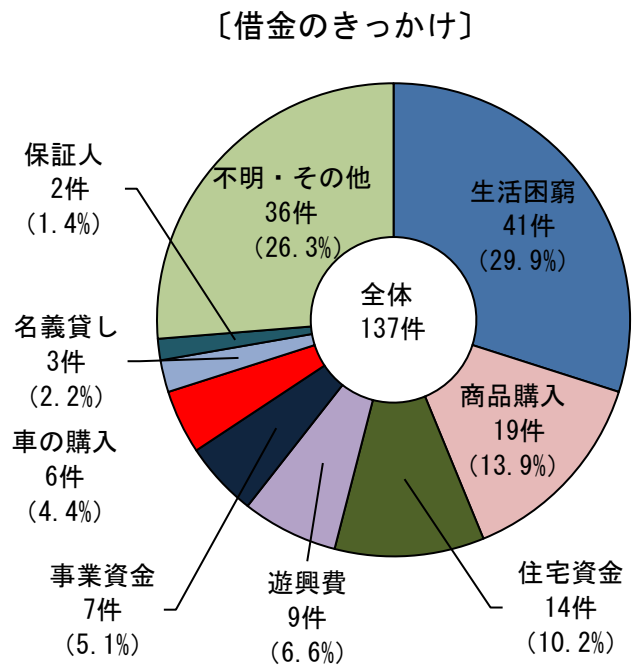
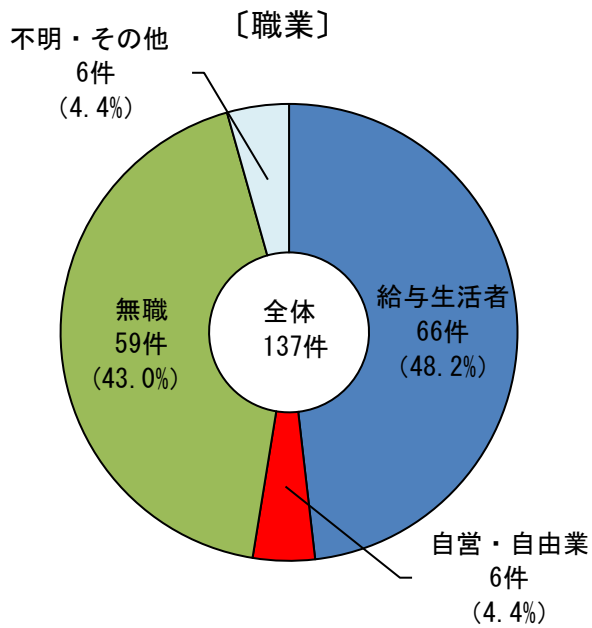


〔性別〕



〔年代〕





6 ヤミ金などの相談の受付状況

令和5年4-9月におけるヤミ金などに関する相談件数は8件で、前年同期より3件（60.0%）増加しました。多重債務の相談の増加に比例するように増加しています。

（単位：件）

	令和5年 4-9月 (a)	令和4年 4-9月 (b)	増 減 (a-b)	前年同期比 (a/b)
ヤミ金	8	5	3	160.0%
融資保証金詐欺	0	0	0	-
借金整理屋	0	0	0	-
ショッピング枠現金化	0	0	0	-
計	8	5	0	160.0%

7 商品・役務別相談内訳

(単位：件)

		令和5年4-9月		令和4年 4-9月	増減
			構成比 (%)		
商 品	商品一般	515	12.7	462	53
	食料品	268	6.6	284	▲16
	住居品	119	3.0	151	▲32
	光熱水品	93	2.3	75	18
	被服品	176	4.3	200	▲24
	保健衛生品	347	8.6	340	7
	教養娯楽品	271	6.7	271	0
	車両・乗り物	117	2.9	103	14
	土地・建物・設備	80	2.0	66	14
	他の商品	17	0.4	8	9
	小計	2,003	49.5	1,960	43
役 務	クリーニング	26	0.6	14	12
	レンタル・リース・貸借	154	3.8	146	8
	工事・建築・加工	110	2.7	93	17
	修理・補修	45	1.1	45	0
	管理・保管	0	0.0	4	▲4
	役務一般	47	1.2	45	2
	金融・保険サービス	374	9.3	349	25
	運輸・通信サービス	320	7.9	264	56
	教育サービス	11	0.3	7	4
	教養・娯楽サービス	267	6.6	293	▲26
	保健・福祉サービス	155	3.8	186	▲31
	他の役務	342	8.4	243	99
	内職・副業・相場	31	0.8	30	1
	他の行政サービス	21	0.5	43	▲22
小計	1,903	47.0	1,762	141	
他の相談	142	3.5	167	▲25	
合計	4,048	100.0	3,889	159	

商 品 主 な 相 談 の	<ul style="list-style-type: none"> ① 商品一般（商品を特定できないもの） ② 保健衛生品（化粧品、他の保健衛生品、医薬品） ③ 教養娯楽品（他の教養娯楽品、玩具・遊具、電話機・電話機用品） ④ 食料品（健康食品、魚介類、飲料） ⑤ 被服品（紳士・婦人洋服、アクセサリ、履物）
役 務 主 な 相 談 の	<ul style="list-style-type: none"> ① 金融・保険サービス（融資サービス、他の金融関連サービス、損害保険） ② 他の役務（役務その他、外食・食事宅配、冠婚葬祭） ③ 運輸・通信サービス（インターネット通信サービス、移動通信サービス） ④ 教養・娯楽サービス（他の教養・娯楽、娯楽等情報配信サービス、教室・講座） ⑤ 保健・福祉サービス（医療、老人福祉・サービス、理美容）